

(有) ファルマやまがた



鶴岡ひまわり薬局

被災地支援報告

2011年 3月21日(月)～26日(土)

支援者：薬剤師・土門 果 事務・小野 勝博

はじめに

3月11日（金）の正午過ぎにおきました東日本大震災で東北地方太平洋沿岸地域、関東地方、中部地方では多大な被害を受けました。

今、現在も復興のめどがたたない地域が数おおくあります。

そんな中で3月と4月の末に支援にあたりました3名より現在の状況も踏まえながら報告させていただきます。

震災から10日目での状況

1. 被災地からの情報がなかなか入ってこないなかでの支援。
2. 流通のルートが分断され、ガソリンや食料品などでの混乱がおこっていた。
3. 行政でも対応に追われ、避難所にいる方たちの声を拾っていくのが難しい状況だった。
4. 被災者は疲労困憊で何をどうしたらよいのかわからず、体力的、精神的な負担も重なり風邪や眠れないなどの症状を訴える方が多数見られた。
5. 被災地の支援者側でも情報が混乱しており、坂総合病院での支援者の統制も大変な状況下にあった。

支援報告

3月21日(月)～26日(土)

主な支援先

塩釜市：坂総合病院・避難所訪問

多賀城市：

つばさ薬局多賀城店・避難所訪問

松島町：

松島海岸診療所・つばさ薬局松島店



坂総合病院



つばさ薬局多賀城店



つばさ薬局松島店

支援1日目：3/21(月)

大震災から10日目で、現地からの情報も少ない中、最悪の状況を想定して約1週間分の自分達の荷物を用意。

毛布、非常食、水、防寒着、携帯用電池式充電器、手袋、ガスコンロ、除菌シート、携帯用トイレ、マスクなどほぼフル装備です。



さらに被災地への移動手段もガソリンの供給が滞っており山形まで朝6時半の高速バスで行き、山形からは至誠堂総合病院で坂総合病院へ物資を運んでいる災害緊急車両へ乗っての現地移動となりました。



至誠堂総合病院緊急車両

移動途中の一般道や高速では被災地へ近づくにつれ所々隆起や損壊しており、正直、本当に大丈夫なのか不安でいっぱいでした。現地へ到着後に本部よりオリエンテーションを受け、すぐさま松島の松島海岸診療所やつばさ薬局松島店へ車両を運転して行きました。地震の影響で信号は止まっており、津波の爪痕が町にしっかり残っているところを確認できました。

移動中の風景



松島での支援内容

1. 松島海岸診療所からつばさ薬局松島店へ使える薬剤の運び出し。
2. つばさ薬局松島店での店内の清掃、カルテのドロの除去作業

薬局内の状況

つばさ薬局松島店では、レセコンのサーバが水につかり、電子薬歴、OTCなどの在庫データなどすべてがなくなったとのこと。薬を患者へただ、ただ渡しているような状態。(名前やお薬手帳で控えを残す形)
電気はきていたが、水がきていない状態。
3 / 2 2 (火)より営業を再開予定でした。

つばさ薬局松島店内の状況



支援2日目：3/22(火)

**土門薬剤師、小野、2人共に8時半より
全体で打合わせ**

小野：坂総合病院入り口にてトリアージ

土門薬剤師：避難所訪問

**つばさ薬局多賀城店は22日だけで
800名強が来局**

(平常時での来客数は大体300名弱ぐらい)

坂病院本部



物資や支援者集合場所



全体ミーティング



3月22日 (火)

小 野

トリアージポスト

トリアージとは？

「トリアージ」は災害医療等において、大事故、大規模災害など多数の傷病者が発生した際における救命の順序を決めるため、標準化が図られて分類されている。「トリアージ」は最大効率を得るため、一般的に直接治療に関与しない専任の医療従事者が行うとされており、可能な限り何回も繰り返して行うことが奨励されている。その判断基準は使用者・資格・対象と使用者の人数バランス・緊急度・対象場所の面積など、各要因によって異なってくる。一般的に、複数個の救急隊が出場する事案であれば（例えば大規模災害等）隊と隊の間の意思疎通・情報共有のためにもトリアージタグが使用される。

トリアージタグ



トリアージタッグの 順位 分類 識別色

傷病状態および病態

第1順位 最優先治療群(重症群) 赤色(I)

生命を救うため、直ちに処置を必要とするもの(救命可能なもの)。窒息、多量の出血、ショックの危険のあるものなど。

第2順位 待機的治療群(中等症群) 黄色(II)

多少治療の時間が遅れても、生命に危険がないもの。基本的には、バイタルサインが安定しているものなど。

第3順位 保留群(軽症群) 緑色(III)

上記以外の軽易な傷病で、ほとんど専門医の治療を必要としないものなど。

第4順位 死亡群 黒色(0)

既に死亡している者又は直ちに処置を行っても明らかに救命が不可能なものなど。

坂総合病院トリアージポスト



3月22日 (火)

土 門

避難所訪問

朝の全体での打ち合わせ終了後、避難所訪問のメンバーで集まってミーティングをし、6つの班に分かれた。

班のメンバー構成はおおよそ医師一人、看護師二人、薬剤師一人、事務二人となっている。

あらかじめ予想される必要そうな薬を各班毎で分け合った。薬の在庫は限られているので前日までに集められていた避難所の情報を元に決められた。

その後、各々の担当の場所を訪問した 自分の班は、杉の入小学校、塩釜第二中学校、入居施設舟入に行くことになった。

避難所での出来事や処方された薬の傾向など

- 一番処方されたのは風邪薬だった。
- 子供にはアレルギーの外用薬などがよく出た
- 時期が時期なので花粉症を訴える大人の患者も多くいたが、花粉症用の内服薬は用意していなかったため、ペレックスなど風邪薬で代用した。

- **慢性疾患の薬を津波などでなくした人には、大体一週間分の薬を渡し、近いうちにかかりつけの病院へ受診するようにすすめた。**
- **血圧の薬などは、名前が分からないケースが多く、医師の判断で強さの近いと思われる物を選択して処方された。**

- インフルエンザを疑われる人がいる場合は、必要な薬を渡して、避難所からやや離れたところに隔離されるケースもあった。
- ちなみに処方薬の会計は無料で、すべて市のほうで負担するという通達がきていた。

避難所から戻った後に

避難所訪問が終了したら、最後に坂病院に戻り反省会をした。

避難所で気になったことがあれば情報として出し合い、後日の訪問時に役立てるために集計をして、その日は解散となった。

待機・宿泊場所（坂総合病院クリニック1号館6F）



支援3・4・5日目

:3 / 23(水) 24(木) 25(金)

小野：避難所訪問

土門薬剤師：つばさ薬局多賀城店支援

3月23～25日

小 野

避難所訪問

避難所訪問ミーティング①

初めて避難所まわり 「8時に避難所ブースにお集



避難所訪問 (3/23AM：小野)



避難所訪問での新しい試み

1. 生活欲求への取り組み
(足浴や髭剃り、おしぼりでの体ふき)
2. 子供達の精神的苦痛の緩和にむけて
(サッカーや野球、鬼ごっこなどで体を使ってのストレス緩和)

避難所の状況

医療の欲求から生活への欲求へ変わってきているのを感じ、足浴などができるように避難所本部との交渉をして実現した。坂総合病院からは特に指示があったわけではないが、同じチーム内で考えてでた行動であった。(小児科Dr、研修医、看護師、社会福祉士、トレーナー、事務などがメンバー)

避難所訪問 (3/23PM 3/24 : 小野)

足浴用のお湯の管理②



避難所訪問 (3/24：小野)

校庭で子供達とサッカー



3月23～25日

土 門

**つばさ薬局多賀城店で
の支援活動について**

おおまかな一日の流れ

基本的には3日間同じようなスケジュールで業務を行った。

朝8時20分より薬局にてミーティング。

8時30分から19時まで調剤業務。

うち30分昼休み。

19時よりミーティング。

19時30分ころ解散。

患者の数について

患者数は初日のうちは相当混んでいたが、25日にはやや少なくなり、通常業務より少し多いくらいとのことだった。

支援する前の日にきいていた人数よりはだいぶ落ち着いていた様子だった。

つばさ薬局のシステムの特徴など

つばさ薬局では渡薬カウンターと調剤室、入力打ち込みの部屋が分かれていた。

待合室の様子は、調剤室からモニター越しに確認できるようになっていた。

そのため患者の目を気にすることなく調剤に励むことが出来た。

どの患者が何分待たせられているかが一目で分かるように常時一覧が表示されていた。

処方箋の情報を入力すると調剤室にデータが送られる。すると患者の情報と一緒に処方薬の保管場所がすべて記載された紙が印刷され、《ex:Aの棚のウ段の4番、Iの引き出し、など》それに書いてあるとおりにすれば、初めて手伝いに来た人でも迷うことなく薬を集められるようになっていた。

薬局支援を通して思った ことなど

支援の薬剤師が毎日7、8人程手伝いに入っていて、毎朝ミーティング時に自己紹介をしていた。

薬剤師の人数が想定より多かったためか患者の数が少なかったためか14～16時はやや手持ち無沙汰になった。

震災時からつばさ薬局の社員は土日なく不眠不休で働いていたそうなので、少しは役に立てたと思う。

支援最終日: 3 / 26

(土)

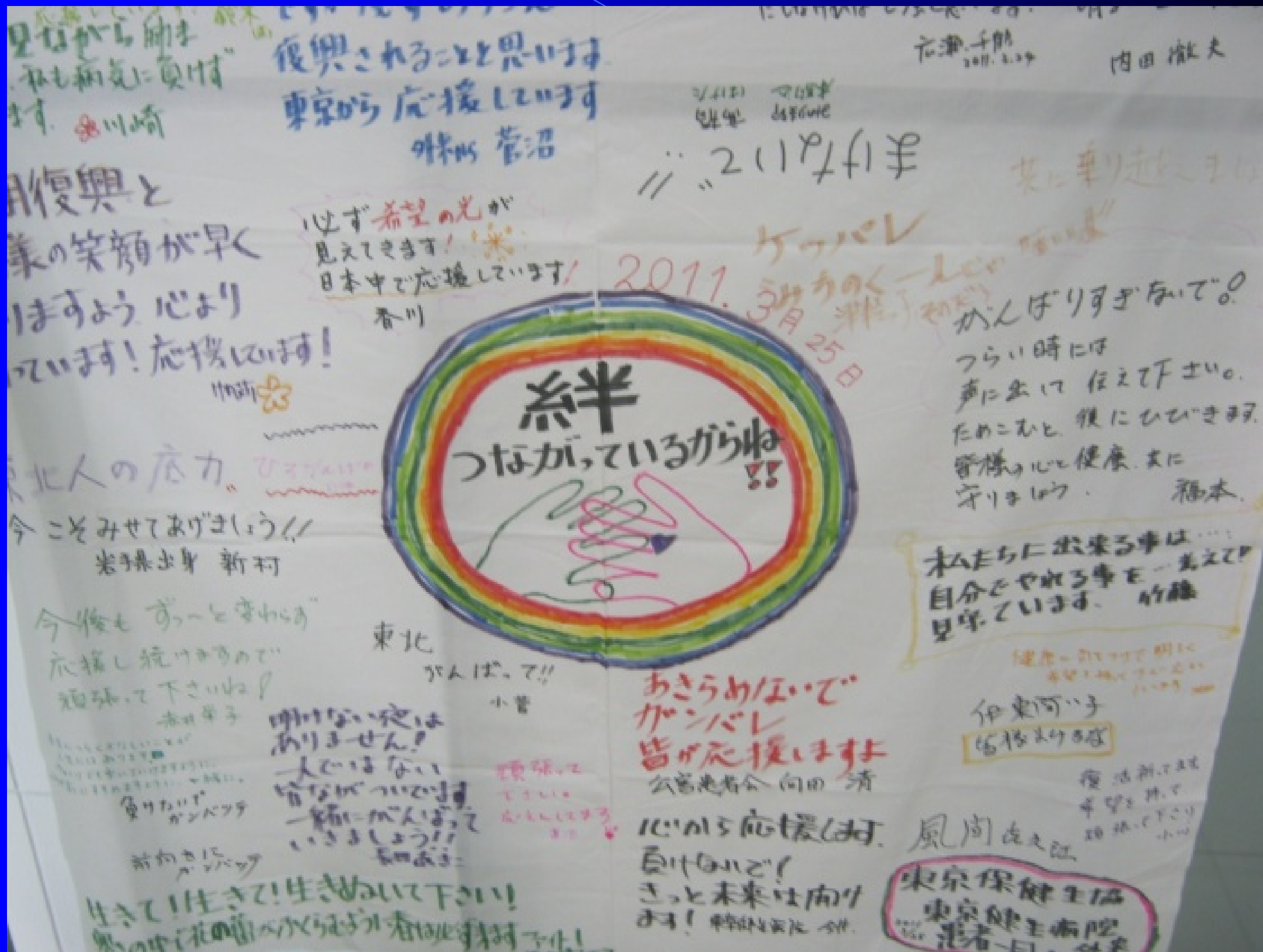
宮城県塩釜市七ヶ浜見学

津波の甚大な被害場所です





全国からの支援の声



被災地支援まとめ

急性期でしたので、混乱もありましたが、少ない情報の中でいろいろなところに対応できたことが本当によかったと思います。

電気や水道、仮眠場所もある程度確保できていたのでよかったのですが、余震がひどくて真夜中におこされることも度々有り睡眠がとれないのがつらかったです。被災者の方々は、余震などによる精神的苦痛も重なってもっともっと苦勞されているだろうことを身をもって体験いたしました。今回の支援6日間の間で小野や土門が少なからずとも、お力になれたかと思います。

支援期間：3月21日(月)～3月26日(土)

3月11日におきました東日本大震災にて甚大な被害を受けました、被災地へは心から哀悼とご冥福をお祈りいたします。

今回のそれぞれの報告で当時の宮城県塩釜市、多賀城市、松島町、東松島市へ支援へ入っての状況や、直接見て感じたことが少しでも伝わればと思います。

政治手動でのいち早い復興が難しいなか、私達のような団体や民間からの被災地への支援がこれからも継続して行われると思いますが、支援する内容も状況の変化で日々刻々と変わってきております。これからも私達ができることを少しずつでもやっていければと考えております。

支援者報告者：土門 果・小野 勝博